

仕事納め

12月28日は、官庁の「仕事納めの日」となっています。民間企業でもそれに習って、明日から年末年始の休みに入るところも多かろうと思います。私の職場である北海道社会福祉事業団も同様で、明日から来年の1月3日までお休みです。もっとも、当事業団が運営している各施設は年中無休で、施設の職員は交代で勤務していますので、年末年始の休みだからとってのんびり構えているわけにはいきません。

この1年、皆さまにとってはどのような年だったでしょうか。国内外を通じて多難な1年であったということに尽きるように思います。

特に、東日本大震災という、かつて経験したことの無い大きな災害や、福島第一原発の事故に遭遇して、我々の日常生活が、如何に脆弱な基盤の上に立っているかを思い知らされると共に、「絆」の大切さを改めて実感した人も多かったのではないのでしょうか。

こうした中で、被災者の皆さんの、秩序を保ちながら互いに助け合う姿は、日本人の精神性の高さとして世界に報道され、大きな感動を与えました。このことは、日本人の一人としてとても誇らしく感じましたし、こうした日本人の精神性は大事にしていかなければならないと思っています。

仕事納め、というのは一つのけじめとして大切なものです。どのようなものにでも、初めがあれば終わりもあります。そのことを日々の生活の中でも意識していくことは、大切なことです。

物事の初めや終わりを意識すれば、どのようなことであれ、始める時には終わりを考え、終わる時は、次なるスタートに如何に繋いでいくかを考えるものです。

仕事納めは、単に1年間の仕事の店じまいで「やれやれご苦労さん」というようなことだけではありません。むしろ、新しい年に繋げていくための「決算の日」とした方が良いでしょう。どんな事業でも、決算がしっかりしていなければ、新たな展望を開くことはできないでしょう。それは、人生でも同じだと思います。自分自身の足下をしっかりと見つめ直すことなしに、次

なる一歩を確かなものにするのは難しいものです。

私自身は、この1年、本業の事業団の仕事とは別に、師範塾を初め色々な活動に参加する機会に恵まれ、忙しくはありましたが、充実した日々でした。勿論、反省しなければならぬ事も多々あり、年末年始の休みの中で、ゆっくりと自分を見つめ直してみたいと考えています。

塾頭通信も、今日が仕事納めということですので。しばらくお休みさせていただきますが、充電し直して、1月4日から改めて書き始めることにします。

皆さまには、これまでお付き合いいただいたことに感謝しています。
よい新年をお迎え下さい。(塾頭 吉田 洋一)